

教育ひょうご

発行所 神戸市中央区中山手通4丁目10-8
兵庫県教職員組合
発行人 兵庫県教職員組合 代表者 森 戸 卓 也
編集人 小林 健
電話 050(3538)2346
1部15円 年定価360円
(組合員の購読料は組合費の中に含む)

2022/6・1

号外・兵退教協版

第44回 兵退教協定期総会



教え子を再び戦場に送るな！ゆたかな学びと育ちの実現を！

終息が見通せない感染症に対するとりくみ

6月2日、兵庫県退職教職員協議会の第44回定期総会が開催され、代議員約100人がラッセルホールで参加した。総会では、21年度の活動の総括と22年度の活動方針・役員等が承認された。冒頭の山名幸一兵退教協会長のあいさつでは、組織の拡大・強化について「感染症の影響がある中で、どのようにとらえ、いけるのか討議し、現職のみならずと連携を密に強化をはかっていく」と熱く語られた。

感染症は、社会・経済だけでなく、兵退教協の諸活動にも大きな影響を及ぼした。兵退教協は、この間、感染症への対応により、総会等を規模の縮小やオンラインで開催してきた。行動規制は緩和されてきたが、新規感染者数の高止まりが続いており、いまだに予断をゆるさない状況にある。今後も感染症対策を講じながら、兵退教協の諸活動にとりくむ必要がある。

また、第26回参議院議員選挙における日政連・比例代表候補予定者の「吉賀ちかけ」さんがオンラインで、兵庫選挙区候補予定者の「相崎佐和子」さんが壇上であいさつに立ち、それぞれ「国会に教育現場の声を届けるために、精一杯努力する」と決意を語った。

学校においても、感染が多く確認されていることから、子ども・教職員の安心・安全と、すべての国民の命・暮らしを守る感染症対策を講じるよう、兵教組・日退教とともにとりくみを強めていく。

組織拡大・強化のとりくみ

兵退教協は、大量退職が続く中で、活動の活性化と充実をむけて、組織拡大を重要課題と位置づけて会員の加入促進にとりくんだ。また、年金支給開始年齢の引き上げにもない、定年退職後も再任用教職員等として引き続き勤務する教職員が増加している。そのような状況をふまえ、16年度以降、兵退教協への加入要件や再任用等組合員の兵教組内での位置づけについて整理してきた。兵退教協の目的や活動内容等を紹介した加入促進パンフレット「兵退教協の仲間とともに！」を活用し、21年度末退職者・過年度未加入者に対して、現・退一致で加入促進を強力にすすめていく。

また、昨年、地方公務員法が一部改正され、23年度より段階的に定年年齢が引き上げられる。定年前退職者の増加も予想されることから、加入にむけてのアプローチのあり方など検討が必要である。

人権・平和・環境を充実・強化させよう

22年2月24日、ロシアはウクライナへの軍事侵攻を開始した。3か月以上経過した現在でも侵攻は、依然として続いている。核の脅

威を暗示し、軍事施設のみならず病院や学校等の民間施設への攻撃は、残忍な行為であり、許容できるものではない。日本においても防衛費の増額や核共有が議論されるなど、予断を許さない状況となっている。

兵教組は、第1回新旧地域組合三役合同会議において「ロシアのウクライナ侵攻に抗議し、対話と交渉による平和的解決をもとめる緊急アピール」を、日退協は、プロック代表者会議で「ロシア軍のウクライナ侵攻に抗議し、軍事行動の即時停止を求める決議」をそれぞれ採択した。兵退教協は、兵教組・日退教・退女教と連携し、4月から「ウクライナ子ども・教育緊急カンパ」にとりくんでいる。

また、憲法「改正」にむけた動きは、改憲勢力が衆参ともに3分の2を占める中、憲法審査会が高頻度で開催されるなど、依然として危機的な状況が続いている。参議院選挙で改憲勢力が引き続き3分の2以上を占める事態となれば、憲法「改正」も含めた大幅な政策転換につながりかねない。私たちは「教え子を再び戦場に送るな！」のローガンのもと、平和を守り、真実をつらぬく民主教育の確立にむけ、全力でとりくまなければならない。

高齢者が安心して生活していくためのとりくみ

4月に改正年金制度法が施行された。60歳から65歳未満の働いている人の年金額は、前制度では、報酬と年金の合計が1か月あたり「28万円以上」になると、年金の一部または全部が停止されてきたが、4月からは「47万円以上」に引き上げられた。また、65歳以降も厚生年金に加入して働きたつた場合、これまでは退職時または70歳到達時に老齢厚生年金の額を改定していたが、4月からは、65歳以上で働いている人の年金額の改定は、在職中でも毎年おこなわれるようになった。

このことにより、公的年金の受取開始が60〜75歳の間で選べるようになった。また、4月からは年金受給を75歳まで繰り下げることができるようになった。

兵退教協 22年度役員の方皆さん

- 代表委員**
【会長】山名 幸一 (姫路)
【副会長】池田 啓子 (三田)
伊藤 玲子 (神戸) 谷口 一彦 (明石)
齊藤 泉 (三美) 米澤 謙一 (豊岡)
小西 清一 (多紀) 田村 政雄 (三原)
森戸 卓也 (兵教組中央執行委員長) 榎田 充 (兵政連副会長)
- 監査委員**
田中 哲也 (三美) 細田 哲子 (氷上)
- 事務局**
松浦 明日香 (事務局長) 山内 圭一 (事務局次長)
木南 拓也 (事務局次長)
- 常任委員**

地区	名前(支部)	名前(支部)
神戸	高見以久好 (神戸)	中村 登 (神戸)
阪神	井東 剛 (宝塚)	藤田 晴美 (宝塚)
東播	櫻井 賢 (明石)	福岡 弘美 (三美)
中西播	橋本 栄 (姫路)	小原 典子 (佐用)
但馬	岡本 操 (美方)	森 龍子 (美方)
丹波	小田 繁雄 (氷上)	西田由美子 (多紀)
淡路	上原 孝 (津名)	柏木 公子 (三原)

ことができるようになった。増額率は0.7%で、75歳まで10年間繰り下げると年金額は84%増額される。さらに、医療制度改革関連法の施行により、10月から後期高齢者の医療費自己負担割合が2割に引き上げられる。

兵退教協は、引き続き、基礎年金拠出期間延長・在職高齢年金の適用改善をはじめ、社会保障制度の充実・改善をもとめ、日退教や退職者連合とともにとりくむ。

21世紀のゆたかな教育の創造をめざすとりくみ

現在の学校現場における深刻な課題は「未配置問題」である。この難局を乗り切るため、退職教職員が県・地教委への講師登録をおこない、学校現場を支援できるようとりくんだ。また、日政連・水岡俊一参議院議員も、本会議や参議院文教科学委員会の場で教職員不足の実態について兵庫のデータをもとに追求してきた。

引き続き、現職地域組合からの要請・相談があった場合には対応し、可能な限り協力していく必要がある。昨年度も兵教組とともに「ゆたかな教育の創造をめざす兵庫県民会議」がすすめる「兵庫の教育をよくする県民署名」にとりくみ、12月に223,2

生活者重視・人間尊重の政治の実現をめざすとりくみ
兵退教協・兵教組は、政策・制度要求実現にむけ、各首長・自治体議員選挙等において各候補者を推薦し、とりくみを推進した。

兵退教協会員には、阪神・淡路大震災を経験した方が多くいる。兵庫での経験をもとに、子どもたちの心のケアや教育の創造的復興にむけて、ボランティアの派遣、義援金の贈呈など様々な支援をおこなってきた。今後も、阪神・淡路大震災の経験と教訓を生かし、被災地の教育の創造的復興にむけ、兵庫だからこその継続した支援にとりくんでいく。感染症の拡大により、私たちの日常生活は一変し、自然災害時に対する支援のあり方も、感染症対策を講じながらの対応をもとめられ、「心のケア」や感染症に関する人権課題の対応も必要となっていく。

地震や水害などの被災経験のある兵庫だからこその息の長い支援を今後とも続けていかなければならない。

わたしたちの政策・制度要求を実現できる勢力を確保・拡大していく必要がある。

私たちが願う政策・制度要求実現のため相崎佐和子・古賀ちかげの完全勝利を!

兵庫選挙区 相崎佐和子さん

比例代表 古賀ちかげさんとともに!



5月21日、三木市文化会館大ホールで政策・制度要求実現!兵退教協・兵政連「政策・制度要求実現」全県総決起集会が開催された。兵教組・兵高教・兵厚労、兵退教協、兵政連のみなさん、約1,200人が三木市文化会館およびサテライト会場から参加した。「教え子を再び戦場に送るな!ゆたかな学びと育ちの実現を!」のスローガンを掲げ集会はおこなわれた。森戸卓也兵教協議長の主催者あいさつの後、来賓を代表して、瀧本司日教組中央執行委員長と兵政連会長のみずおか俊一参議院議員から、激励・連帯のあいさつが述べられた。(下記参照)

私が国に届けたい声は3つ。1つめは、子どもたちの声。15年間議員をしてきて、様々な声を聞いてきた。特にしんどい状況を抱えている子どもたちの声を政治の場に届けて、よりよくしていきたい。例えば、家庭の経済的な状況で教育格差が生じ、進学ができない。また特別に支援やサポートを必要としている子どもたち、不登校など学校に行くのがしんどいという思い

日教組の組合員から教えてもらったことは2つ。1つめは子どもの方見方も5年前まで教壇に立っていた。子どもの思い、保護者の願い、生活背景の全部を見て、知ってから子どもを見なくてはならない。一部の事実だけを見て判断してはいけない。子どもを中心にすえて教育をしていかなければならない。2つめは運動。私は20年間、臨時採用教職員だった。賃金が低く、処遇も悪く、雇用も3月にはいつも切れていた。常に不安があり、諦めていた。「採用試験に

受からない自分が悪い」と思っていた。その時、「おかしなことには声をあげろ。権利は待っていない。自分たちの運動し、勝ち取り、仲間をつくり、連帯して大きな一歩がすすんでいく。おかしなことに声をあげること。それが運動」と教わった。教育は子どもをしっかりとみていくこと。おかしなことには声をあげること。この2つを心の根っこに留めて皆さんの思いを国会に伝えていくことを約束する。

2つめは教職員の声。教職員は子どもたちのために熱く、強い思いでとりにくくしている。しかし、過酷な勤務状況である。「特別支援に携わる教職員の数を増やしてほしい」という声を聞いた。それは、支援が必要な子をサポートしたいけれど、教職員の人数が不足しており、悔しい思いを抱えているということだった。教職員の皆さんの熱い思いをしつかりと受け止めて、国を変え、教職員がその思いを十二分に発揮

次は「平和」について。ウクライナの件で、教育は平和という基盤があるからこそ充実させることができることを改めて感じた。国内にも核共有、軍事増強、憲法改悪といった動きがすすんでいる。九州をまわったとき種子島に行った。近くに馬毛島という島があり、種子島の人が「馬毛島を抱えている子どもたちなど、たくさん声を聞いてきた。それを解決するために市や県でとりくんできた。教職員も現場で全力を尽くしている。私は、国でその子どもたちの力になりたい。

は昔は人が住み、農業や漁業が盛んで緑いっぱい島だった」と言っていたが、実際行ってみると、軍事基地の建設がすすんだ真つ黒の島になっていた。こうして少しずつ戦争の気配が近づいている。長崎では、8月9日の11時2分に原爆を許さない音楽が市内中に流れる。学校でも子どもたちがその音楽を聴き、原爆のことを話し、当時の出来事を語り継ぐ。皆さんが阪神・淡路大震災から復興され、力強く生きているように長崎の皆さんも復興し、今でも後遺症に悩まされる方もいる中で平和を、核と人類は共存できないことを発信している。平和を守っていく、民主的な社会、声をあげられる社会を守っていく。

3つめは、平和の声。今、ロシアがウクライナに侵攻しており胸が痛むばかりではない。今こそ、国民のいのちとくらしを守る。政治の最大の責任と役割であり、全力でとりくまなければならない。国民のいのちとくらしを守ることは、戦争をすることではない。核を保有することではない。日本は戦争を放棄する。日本はいかなる戦力ももたないということは今こそ発信することが、国民のいのちとくらしを守ることにつながるのだと思っている。父が平和教育の中で、「教え子を再び戦場に送るな!」と言っていたことを覚えて

世界情勢が不安定になってくると、勇ましいような意見が頼もしく聞こえるかもしれないが、それは違う。子どもたちや国民のいのちとくらしを守る、誰ひとり危険にさらすわけにはいかない。日本は、戦争を放棄しているのだという声をあげなければならない。この参議院議員選挙は大切な選挙になると思っている。子どもたちの声、教職員の声、平和の声を今こそあげなければならない。兵庫県でも平和の議席を確保しなければならぬ。そのために、私は全力でとりくむ。これらの声をぜひ一緒にあげさせてください!

改善していきたい。「くらし」では、介護保障、社会保障の制度の充実についても改善していきたい。また、衆議院の女性の議席は9.7%。男性は90%以上。また子育てや介護の負担が女性にかかり、働き方を考えなければならず、パートでしか働けない経済的に苦しんでいる女性がたくさんいる。自信が持てず、悩み、自死が増えている。子育て・介護の視点ももち、政策に入れていかなければならない。そして政策決定の場に女性がいることが大事。相崎さんとともにがんばっていく。

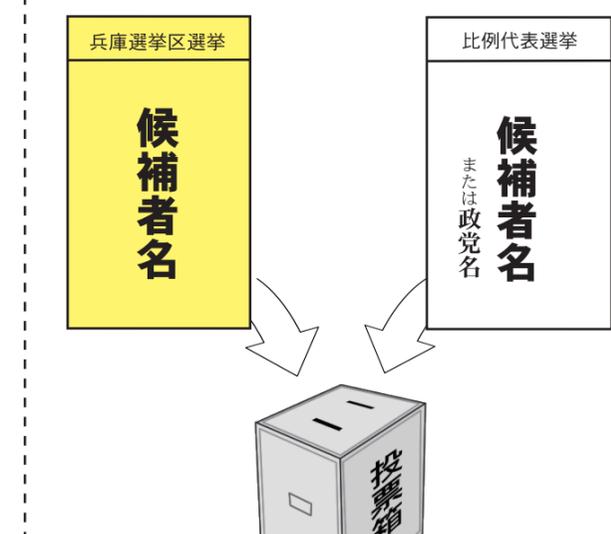
国会の場で現場の声を代弁する人が必要。2004年の当選から一緒にがんばった那谷屋正義さんや皆さんの代わりに、古賀ちかげさんを国会に送るという力をいただきたい。私自身、兵庫選挙区の候補者として、皆さんに応援をいただいた。極めて厳しい戦いが続いているのが現状である。何が厳しいのか一つ数字を紹介する。無差別抽出方式(サンプル数約1,000件)における政党支持率において、自民党は28.3ポイント、その次は日本維新27.1ポイント、その次は公明党10.9ポイント、立憲は7.9ポイント。兵庫選挙区は3名枠。公明党、維新を切り崩さないといいけない。皆さんは何ができるのか?何が決め手になるのか?集まってい

る、または県下で声を聴いている仲間の思いは今も変わらず大事である。選挙と教育は切り離せない。政治と教育は切っても切れない。そのような思いを皆さんが持っていることを確信している。そういった思いを、隣の人、さらにその隣の人にどう伝えていくかで大きな変化が起こっている。これは私たち兵教協の仲間のことだけではない。社会の様々な人たちが、今の政治をどう考えていくかというなかで、「一緒に行動しよう」という声や、手をあげる行動が少なくなっていると思う。だからこそ皆さんの応援の思いを私たちはみんなで共有し、その声をさらに広げていく運動を展開していくことが、厳しい兵庫選挙区において、相崎佐和子さんを国会へ送ることにつながる。

今兵庫県の参議院議員で私たちの声を届ける議員は一人もいない。私たちの声、仲間の声を届けることは難しいことは事実。だからこそ、皆さんの仲間にも声をかけ、輪を広げていくとくみ、ともにがんばろう!

今兵庫県の参議院議員で私たちの声を届ける議員は一人もいない。私たちの声、仲間の声を届けることは難しいことは事実。だからこそ、皆さんの仲間にも声をかけ、輪を広げていくとくみ、ともにがんばろう!

今兵庫県の参議院議員で私たちの声を届ける議員は一人もいない。私たちの声、仲間の声を届けることは難しいことは事実。だからこそ、皆さんの仲間にも声をかけ、輪を広げていくとくみ、ともにがんばろう!



選挙区、比例代表ともに 「候補者名」 で投票を! 兵庫選挙区 相崎佐和子 比例代表 古賀ちかげ の必勝を!